



第21号

平成23年9月  
発行岐阜県総合医療センター  
病診連携部

# 岐阜県総合医療センターの現状と 地域医療連携センターの さらなる発展に向けて



岐阜県総合医療センター副院長 杉原 潤一

岐阜県総合医療センターは、昨年4月に地方独立行政法人となり1年半が経過しました。この間昨年2月の情報交流棟と管理棟の完成に続いて、本年5月には遅っていました外構工事が終了し、駐車場が完備しました。これまで來院される先生方や患者さんにご不便をおかけしておりましたが、現在は駐車場待ちはほぼ解消されており、診察や採血の待ち時間短縮にもつながってきているようです。独立行政法人となり人事（採用やポストの増設など）や機器購入などの面で柔軟性や機敏性が出てきました。しかし一方では、法人の中期目標に向けての課題達成や収益性が求められるようになってきており、5～6月にかけて各診療科・部署から昨年度の目標プランや診療内容についての評価・総括、さらに今年度の課題や医療機器購入予定などに関して様々なプレゼンテーションと討論がなされました。また来年2月には病院機能評価(Ver.6)を受審する予定で、現在センター職員は一丸となって取り組んでいるところです。

さて先生方に大変お世話になっております地域医療連携センター部は、平成13年に病診連携室としてスタートしてからはや10年が経過しました。この間平成20年9月には地域医療支援病院の認定を受けることができ、現在センター

は病診連携部、退院調整室、地域連携パス部から成り立っています。22年度の紹介率は61.5%、逆紹介率は74.3%、連携部を介した月平均のFAX予約件数は714件（紹介件数の47.4%）であり、いずれの指標も順調に上昇しております。また退院調整件数、転院・在宅医療件数も次第に増加してきており、お陰様で昨年度の平均在院日数は13.2日と安定しております。これらは先生方と当センターの診療連携が順調に発展していることを示しており、深く感謝申し上げます。一方地域連携パスは、連携の効率化と医療の均霑化の観点から重要なツールであり、すでに急性心筋梗塞、ウイルス性肝炎、脳卒中、大腿骨頸部骨折、前立腺疾患などのパスが活発に運用されています。また本年からは5大がん（胃癌、大腸癌、肝臓癌、肺癌、乳癌）の連携パスも運用が開始されており、当センターはがん診療連携拠点であることから、積極的に活用していきたいと考えております。

今後も最適で良質な医療を提供できるよう心がけるだけでなく、地域医療連携センター部を通じて地域の先生方との連携をより密にすることで、患者さんに安心感を抱いていただけるよう努めたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 地方独立行政法人 岐阜県総合医療センターの理念

県民の皆様方に信頼され、  
患者様本位の安全で  
良質な全人的医療を提供します。

## 地方独立行政法人 岐阜県総合医療センターの基本方針

- 1、岐阜県の基幹病院として急性期を中心とした医療を担当します。
- 2、科学的根拠に基づく医療の提供と医療安全に努めます。
- 3、必要な医療情報を広く公開し、医療の信頼性を確保します。
- 4、地域の医療機関や福祉施設との連携を重視します。
- 5、迅速かつ確実な医療とともに、効率的な病院運営に努めます。
- 6、医学的知識、医療技術の研鑽に努め、医学や医療の進歩に寄与します。

## 連携医の紹介

### さかい医院

当院は平成18年5月に当時の県立岐阜病院の東約2kmの岐阜各務原線の道路沿いの岩地に開業いたしました。開業する前に岐阜県総合医療センターの前身である県立岐阜病院時代に23年間(S.58年～H.18年)勤務させていただいており、又地理的にも近いことから患者さんの紹介、逆紹介で大変お世話になっています。その紹介の際には岐阜県総合医療センターの先生方、コメディカルの皆様には常日頃からご支援ご協力を賜り、深く感謝しこの場を借りましてお礼申し上げます。

岐阜大学、県立岐阜病院において私の研究テーマであった泌尿器科悪性腫瘍疾患はもとより、泌尿器科疾患全般においても積極的に取り組んでおります。又、このほかに大学卒業後、形成外科医を目指していた時期もあり2年間の研修を徳島大学皮膚科で行っており、皮膚科疾患全般においても積極的に取り組んでいます。

今年5月には当院も5年が過ぎ、診療において少しずつ余裕がでてきています。そのため、今後取り組んでいきたいあるいは取り組んでいかなければならない課題がいくつかあります。まず、岐阜県総合医療センターで開催されている病診連携緩和ケアカンファランスや癌カンファランスへ積極的に参加し、その場から多くの知識を吸収し患者さんにとってメリットのある診療・治療に少しでも還元できるように努力してゆきたいと考えています。次に、当院より岐阜県総合医療センターへ紹介し入院された患者さんに対して開放型病床入院申込書に

さかい医院院長 酒井 俊助



サインし開放入院での共同診療をお願いしています。しかし、実際には紹介患者さんの病棟訪問・診療参加には皆無です。退院後に病診連携で当院へ紹介される患者さんも多く、入院中の状態を知るうえでも積極的に参加していかなければならない課題と考えています。次に、退院後に在宅治療を要する患者さんも多く、家庭において病気と向き合っていかなければならないという問題があります。病診連携より紹介された場合には、訪問看護センターと密に連携し当院としてできる役割を十分に行い地域医療に少しでも貢献できればと考えています。

最後に、些細な件でご紹介させていただくことがあります。何卒ご指導・ご鞭撻くださるようにお願いいたします。

## 診療科の紹介

### 睡眠時無呼吸センター

耳鼻咽喉科部長 兼 睡眠時無呼吸センター長 柳田 正巳

平素は当センターに格別のご高配を賜り、厚くお礼を申し上げます。平成22年4月より睡眠時無呼吸センターが開設されました。自宅でおこなっていただく簡易アプノモニター検査では十分な診断が困難でしたが、本年1月からは入院して行うPSG検査ができるようになりました。ようやく皆様のご要望にこたえることができるようになりました。水曜日以外の毎日、診察の受け付けをしております。

睡眠時無呼吸症候群(SAS)の診断が必要とされる方がいましたら、紹介してくださるようにお願い申し上げます。耳鼻科が受付窓口になっておりますので、鼻咽頭喉頭の原因検索が素早くできることや手術が可能な症例についても対応できると思います。また、SASは肥満、糖尿病、心疾患、腎疾患等との合併例が多いため、糖尿病・内分泌科や、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科など

とも連携し、他疾患の精査を行うことも可能です。総合病院の特徴を生かして、睡眠時無呼吸症候群の診断と治療をおこなっていきたいと存じます。副鼻腔炎や扁桃炎(扁桃肥大)で手術の対象になる例以外はN-CPAP治療を行うことが多いのですが、中には口腔内装置(OA)を使用される方もあります。口腔外科にて作成していただいております。連携医の先生方の中でCPAP治療を引きうけていただける場合には紹介させていただいております。またCPAP治療中の症例で治療が十分な効果が現われているかの検査にも活用できるかと存じます。ご活用していただければ幸いです。まだ開設してまもない領域ですが、皆様のご指導をいただきながら発展していきたいと考えております。今後ともよろしくお願い申しあげます。



「検査室(病室)とPSG検査装置(エンブラ)」

## 救命救急センター

循環器内科部長 兼 救命救急センター長 野田 俊之

救命救急センターは、1階の救命救急センター外来と西3階の病棟からなっており、岐阜地区の中核病院の救命救急センターとして精神科疾患を除く全ての救急疾患を対象に、24時間体制で対応しています。1.常時受け入れベッドを確保し、救急患者を断らない、2.高度な医療を迅速に提供するために関係診療科・部署が支援体制をとる、3.最新の医療水準を保ち、良質の医療を提供することを目標として、1次から3次までのER型の救急医療を行なっています。救急外来では日勤帯は内科系、外科系、小児科が各々当番制で対応し、夜間・休日は内科系、外科系、小児科の当直医が各々1人配置され、24時間診療を行なっております。医療センター



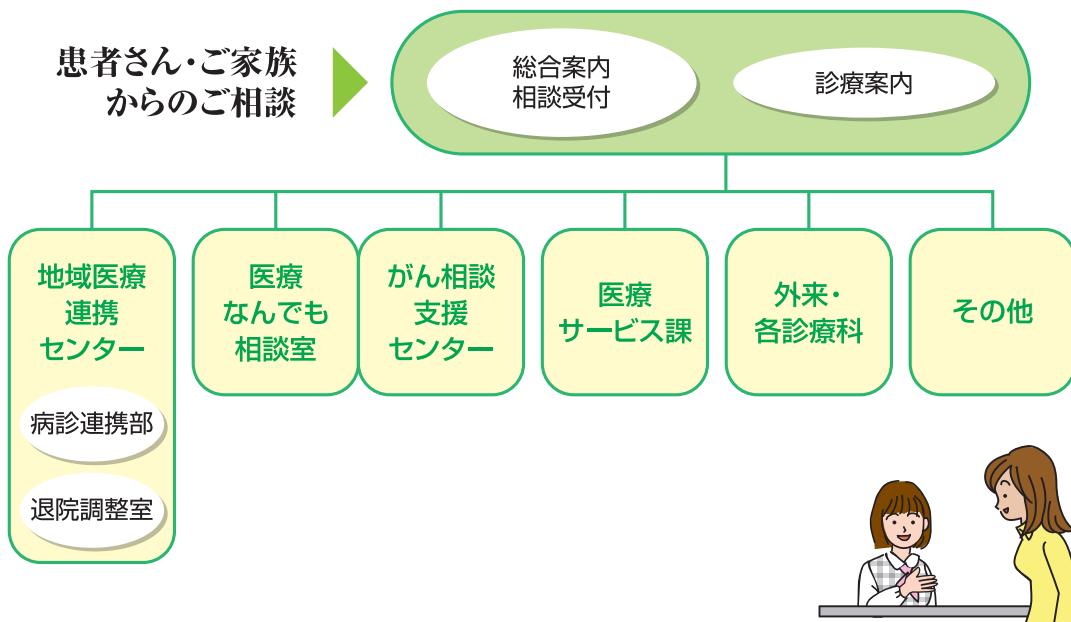
の全ての医師が医療に参加しており、また、地域の医療機関との連携もとっており、各務原市医師会小児科、他院の内科、外科の先生にも参加いただいております。臨床検査、放射線検査(CT,MRIも含む)は常時可能で、救急関係各診療科は24時間呼び出し体制をとっており、緊急検査・手術も常時行い得る体制となっています。救急医療研修の場として研修医も常に診療に携わり、毎週金曜日早朝には救急症例検討会を開催し、より充実した救急医療を提供できるよう研修しています。救命救急センター病棟はICU4床、救急患者入院用病床26床を有しております、ICU医師が常駐し、看護師は60名配属されており、また、平日は薬剤師、理学療法士が常駐し、きめ細かい医療を提供するよう心がけています。年間救急外来受診患者数は約28,000例で、救急車は約4,600台受け入れております。センター入院患者数は約2,000例で、循環器系疾患が約半数を占めます。平均在室日数は4~5日で、急性期を脱した患者は一般病棟へスムーズに転棟していただき、救急患者を常時受け入れられるようにしています。今後も、1次・2次医療機関との連携のもと救急医療をさらに推進していくたく思っています。

# 病診連携部からのお知らせ

## 総合相談センター開設のお知らせ

内科部長 兼 総合相談センター部長 飯田真美

患者さんが医療に関して相談したいと思ったときに、どこに相談してよいのかわからないという声をよく聞きます。この度、患者さんやご家族が気楽に相談し、安心して医療を受けられるように、また院内外の医療者も患者さんに関する種々の相談をしていただけるように、平成23年4月から総合相談センターを開設しました。各種相談を一つの窓口で受け付け、その内容によって適切な部署や専門の職員（医師・看護師・ソーシャルワーカーなど）に引き継いで対応を致します。病院正面玄関を入ったすぐにある総合案内・相談受付が窓口になっており、いつでも気軽に声をかけていただけます。面談以外に電話でのご相談も可能ですので、どうぞご利用ください。



実際にご相談いただいているのは次のような内容です。

- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| ・受診科選択に関する相談            | ・入院患者の在宅療養相談           |
| ・検査治療に関する相談             | ・退院時の転医、転院、施設入所相談      |
| ・疾患および症状に関する相談          | ・療養費用・医療費控除に関する相談      |
| ・緩和ケア（がん以外のものも含む）に関する相談 | ・障害者制度・公的・社会福祉制度に関する相談 |
| ・ホスピスに関する相談             | ・虐待・DVに関する相談           |
| ・セカンドオピニオンを受けることに関する相談  | ・他施設からの問い合わせ（医療に関するもの） |
| ・外来患者の療養相談              | ・その他                   |



<病院正面玄関を入ってすぐ、私たちが窓口です。>

「総合案内・相談受付」平日 8:00～17:15

編 集 後 記

岐阜県総合医療センター病診連携新聞第21号をお届けします。  
病診連携に向けて、先生方に少しでもお役に立てる紙面を目指しています。  
ご意見、ご要望がございましたらお寄せください。お待ちしています。



地方独立行政法人  
岐阜県総合医療センター

〒500-8717 岐阜市野一色4丁目6番1号  
病診連携部直通 TEL (058) 249-0017  
FAX (058) 248-9334

発行／岐阜県総合医療センター病診連携部